

水害から身を守ろう！

これから集中豪雨（梅雨）や台風などによる本格的な出水期（6月～10月）を迎えます。気象台からの気象情報は市町村ごとに発表されます。万一に備え、日頃からテレビ・ラジオなどで気象情報を確認するよう心がけましょう。

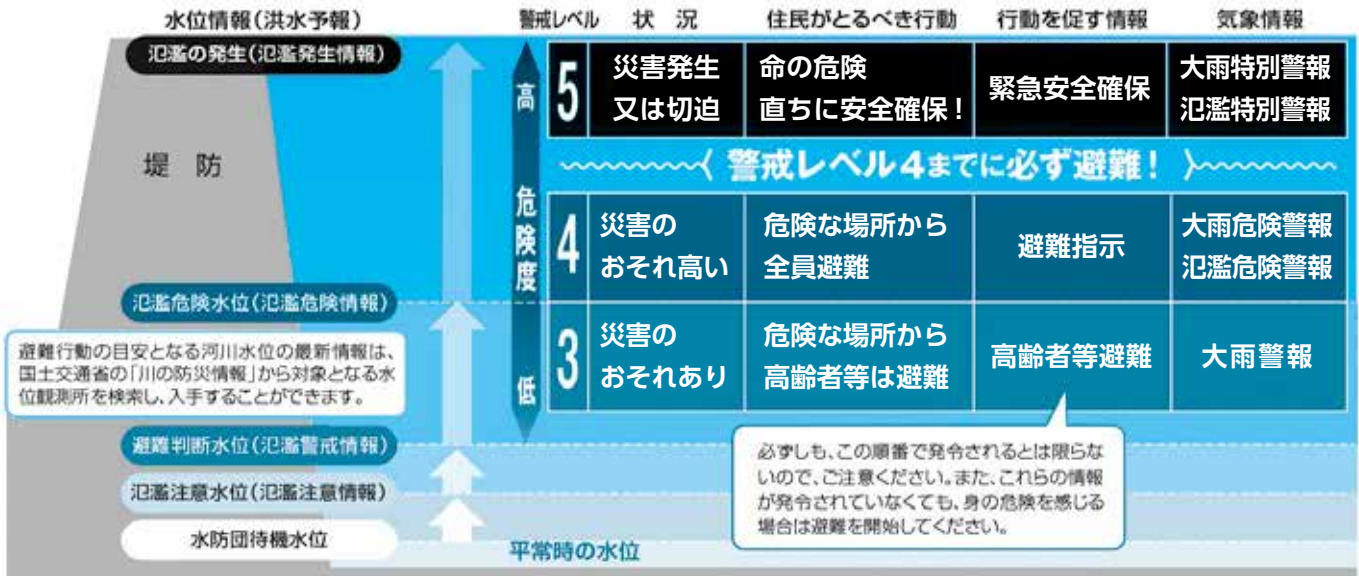
● 雨の降り方と雨量

降っている雨を観察することで、だいたいの雨量を知ることができます。危険な状態になる前に自分で判断して避難ができるよう、雨の降り方と雨量の関係を知っておきましょう。

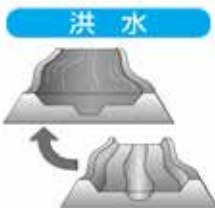
	やや強い雨 10～20mm	強い雨 20～30mm	激しい雨 30～50mm	非常に激しい雨 50～80mm	猛烈な雨 80mm以上
雨の降り方 1時間雨量 (mm)					
人の受ける イメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る (ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしてもぬれる		傘はまったく役に立たなくなる	
屋内 (木造住宅の場合)	雨の音で話し声がよく聞き取れない	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく			
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	
車に 乗っていて	ほとんど影響なし	ワイパーを速くしても見づらい	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる	車の運転は危険	

● 避難情報の種類と避難行動および水位と洪水予報の関係

河川の水位が上昇し、氾濫の危険性が高まった場合は、河川を管理する国や県、気象台が共同で、水位や防災に関する情報を発表します。市は、この情報を目安に、雨の降り方などを総合的に判断した上で避難指示等の避難に関する情報を発令します。



● 洪水災害とは



洪水とは、雨などにより川の水量が普段より著しく増えた状態をいいます。河原へ行くと広い敷地のわりに中心部しか水が流れていません。これが通常の姿です。ところが、川幅いっぱい水がおしよせると、広い河原も水の下にかくれて見えません。このように異常に水が増えたときを「洪水」といいます。



水害とは、水によって起こる災害のことで、外水氾濫も内水氾濫も水害と呼ばれます。ただし、海水による水害の場合は、高潮災害、津波災害といった呼び方をします。

● 氾濫



氾濫とは、雨などにより、住宅地や農地などに水が溢れることをいいます。川から水が溢れたり、堤防が決壊して起こることを「外水氾濫」といいます。川から水が溢れるのではなく、街中の排水が間に合わず、水路などから溢れ出すなど、降った雨がそのままたまって溢れることを「内水氾濫」といいます。



● 洪水のおそれがあるときの避難行動

【危険な場所に近づかない】

河川などの様子を見に行くなどの行動は控えましょう。またアンダーパスや周囲より窪んでいる場所などは冠水のおそれがあります。局地的な豪雨により小さな水路等はある可能性もあります。危険な箇所を避ける避難経路を日頃から確認しておきましょう。



【情報収集と自主避難】

テレビ・ラジオ・インターネットなどで気象、災害、避難に関する情報を入手しましょう。洪水の危険が迫ったときは、市や消防団からの避難の呼びかけがあります。

また、指示がなくても危険を感じた場合は自主避難を心がけましょう。



【あわてずに避難】

動きやすい服装で運動靴を履いて避難するようにしましょう。避難先を確認し、家族や知人などに避難したことを連絡しておきましょう。



【協力しあって避難】

単独での避難はできるだけ避け、避難が困難な方をご近所の方などと助け合って避難しましょう。また車での避難は、冠水で動かなくなったり、緊急車両の妨げになることがあるため避けましょう。



【避難時の注意点】

浸水の深さが高くなる前に早めに避難をするようにしましょう。外れたマンホールや側溝などの危険があるので、棒を杖代わりにするなど、安全に注意して避難しましょう。



【避難が困難なとき】

歩ける水の深さはひざ下程度までと言われており、それ以上浸水したときの避難はかえって危険です。やむを得ず避難所などへの避難ができない場合は、近くの頑丈な建物の上層階への避難、それも困難なときは家の中でのできるだけ安全で高い場所に避難しましょう。



● 住宅の浸水被害を防ぐためには

雨水が浸入しないように土のう、止水板を設置することや、普段から道路の側溝などを掃除して、雨水が排水できるようにしておくことで、住宅の浸水被害を防ぐことができます。

・土のう

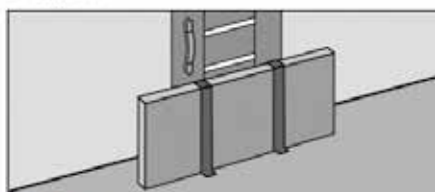
出入りにブルーシート等で包んだ土のうを置き、雨水の浸入を防ぎます。

・止水板

出入りに長めの板などを設置して、水のうなどで固定して、浸水を防ぎます。板がない場合は、テーブル・タンス・ロッカー・畳などで代用することも可能です。

・側溝や雨水ますの集水口の確認

道路の側溝や雨水ますの集水口(グレーチング)に落ち葉などが詰まっていないか確認しましょう。詰まっていたら、取り除いておきましょう。



● 思わぬ場所からの浸水を防ぎましょう

住宅の周辺が浸水すると、下水が逆流して、トイレ、風呂場や洗濯機の排水口などから水が噴き出ることがあります。ビニール袋に水を入れた水のうを置くと、逆流を抑える効果があります。



【問い合わせ先】市危機管理課 ☎ 31-0601

土砂災害から身を守るには・・・

「日頃の備え」と「早めの避難」が重要です！

防災情報や避難情報に注意して、
早めの避難を心掛けましょう。
ご家族で「避難場所・避難経路」を
確認しておきましょう。

平成9年 出雲市奥宇賀町 布勢川



家族で危険箇所・
避難場所を確認！



大雨の時は
防災情報に注意！

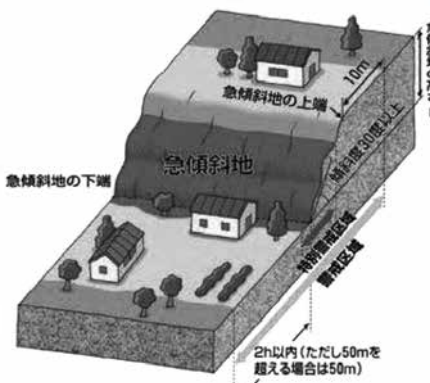


非常時の
持ち出し品を確認！



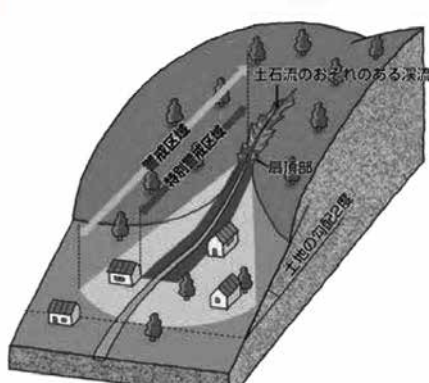
ご近所と声をかけあって、
みんなで避難！

がけ崩れ




がけに雨水がしみ込み、
弱くなった斜面が瞬時に
崩れ落ちます。

土石流



谷あいの岩や土砂が、
豪雨等により水と一緒に
一気に流れ出します。

地すべり



比較的緩やかな斜面で、
地下水の影響などにより斜面が
ゆっくり動きだします。

土砂災害の危険がある場所は、ハザードマップや島根県 HP の「マップ on しまね」から
確認できます。身の回りの危険な場所を確認し、早めの避難を心がけましょう！

マップ on しまね <https://web-gis.pref.shimane.lg.jp/shimane/Portal>

問い合わせ先 〒690-8501 松江市殿町1番地
島根県土木部砂防課 TEL:0852-22-5211
農林水産部森林整備課 TEL:0852-22-5172 農林水産部農地整備課 TEL:0852-22-5152

